

2014 年度秋学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜日・時間・教室 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 の 文 化 と 社 会 *	日本の文化と社会 B	神埜正子 (かみや まさこ) 小川 聖子 (おがわ せいこ)	月・1 N202	本科目は、諸外国の影響を受けながら、長い年月をかけて日本人が生み出し、育んできた、衣生活・食生活について、階層、時代、地域などを切り口に、文化の視点から捉えようとするものである。衣生活や食生活に生かされたこうした知恵や文化がいかに継承されているかなどを学んで、現在の日本の文化と社会を再認識するきっかけとし、生活文化の視点から日本への理解を深めてほしい。	【内容】衣生活については、古代から現代に至る変化をとらえ、それぞれの時代の文化の成立と現在まで受け継がれている伝統行事の関連で展開する。食生活については、日本の食文化を社会の変化と共にとらえ、さらに今日の食生活の問題点に触れつつ、食生活・食文化の発展とは何かについて考える。【テキスト】特になし。 【評価方法】平常点評価(授業への参加状況)50%。レポートおよびペーパーテスト50%(各講師の持ち点25%ずつ)。①1~7週(神埜):毎回のまとめのミニレポートおよび最終日(7回目)のペーパーテスト。②8~15週(小川):ミニレポートおよび最終日(15回目)のペーパーテスト。このテストには、配付資料の持ち込みを可とする。
	日本の文化と社会 D	古田悦造 (ふるた えつぞう)	木・1 N105	日本における地域差に関して、地名・言語・城下町を事例に4回講述する。また、野外実習の現地観察によって、その相異を学習する。	【内容】日本を理解する上で重要である各地域の位置関係や社会・文化の地域差に関して習得する。また、現地観察によりその知識の確認と再認識を図る。2014年12月26日(金、夜行で出発)~29日(月)に3泊4日の研修旅行を実施する。見学地は、姫路市・京都市等を予定。研修旅行費は3万円程度必要(行き交通費、宿泊費のみ。復路の交通費は含まない)。【評価方法】出席点20点、野外巡検参加80点。
	日本の文化と社会 F	日高 慎 (ひだか まこと)	木・1 C103	本講義では考古学をもとにして旧石器時代から近代・現代までの日本歴史・文化について通観する。考古学は発掘調査によって出土した遺構・遺物をもとに歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの、すなわち文献史料を用いて説明を行うことが多いものの、考古学の成果を無視しては日本歴史は語れない。本講義を通じて考古学の特徴を理解してほしい。	【内容】考古学は発掘調査の成果から歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの(文献史料)で説明されることが多いが、かかれたものはきわめて限定的であるとともに、支配者側の論理によって書き留められることが多い。つまり文献史料だけで歴史を語ることは、一方的な歴史解釈になってしまいがちである。それに対して考古資料は人々の生活そのものが残されることが多い。考古学の成果を通じて日本歴史・文化を考えたい。 【テキスト】なし。【参考文献】図解・日本の人類遺跡(東京大学出版会)、図解・日本の中世遺跡(東京大学出版会) 【成績評価】平常点40%、最終レポート60%。平常点は出席及び小レポートにより採点する。最終テストは授業で取り上げたテーマに関して出題し、レポートをまとめる。
	日本の文化と社会 H	渡辺雅之 (わたなべまさゆき)	木・1 N101		【内容】 【テキスト】 【評価方法】

*「日本の文化と社会 A・C・E・G」は、春学期に開講します。「日本の文化と社会」の授業内容は、「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」からも見られます。

日本 研 究 科 目	日本研究演習 A (社会)	加藤 拓 (かとう たく)	金・3 S107	日本で習慣化した消費行動、日本で最近ヒットした商品や流行現象などをとりあげ、その社会的背景や企業行動を理解する。	【内容】講義のはじめに日本で定番化した商品や、いま流行している商品、消費現象に関する話題を紹介し、その理由を社会的背景や関連する企業の行動を中心に説明します。日本人にものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。楽しいクラスにしましょう。 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点 50%、発表・レポート 50%
**	日本研究 B (人文)	有澤知乃 (ありさわしの)	火・2 S405	日本の祭りについて、宗教、社会、文化、芸能など様々な観点から考察します。	【内容】日本全国の祭りについて、映像資料を見ながら学びます。京都の祇園祭では、どうして華やかな山鉦を曳いて人々が街を練り歩くのでしょうか？盆踊りの歌や踊りに込められている意味は？札幌雪まつりが国際的な祭りに発展した背景は？各地の人々の風俗や信仰が、祭りの中にどのような形で表れているかを考え、更に現代社会における祭りの変遷や新しい取り組みについても議論します。課題として、各自で祭りに行ってフィールドワークを行い、観察したこと、考えたことについて発表をしてもらいます。(今年度は、12月以降、他の教員が担当します。授業内容については改めて連絡します。) 【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点15%、発表35%、レポート50%

<p>日本研究演習C Field Study (School Visit)</p>	<p>戸田 孝子 (とだ たかこ)</p>	<p>火・5 W301</p>	<p>【ねらい】この授業は、日本人学生と共に、受講生それぞれが、得意とする自分のフィールドについて、特に、「若者の生活・文化、大学、学校、教師、学生、教育」などの視点を取り入れたプレゼンテーションを考え、発表しあうこと、また、交流の雰囲気のあるクラス的环境設定の中で、多文化共存の時代に必要な、友好的、創造的なアプローチについて、実践的な新知見を得ることをねらいとしている。</p>	<p>【内容】初回、フィールド・スタディの概念、その多様なアプローチについて講義を受ける。日本人学生も参加する。各自、得意な自分のフィールドについて紹介するためのプレゼンテーションの方法（パワーポイント、デモンストレーション、模擬授業など）を考え、発表日の予約を行う。発表時間は、一人30分～60分、受講生の人数により、時間調整を行う予定である。プレゼンテーションの具体的内容、方法については、初回に、これまでの事例が紹介される。第2回目から、発表が始まる。なるべく、1回に、留学生1名、日本人学生1名の発表ができるように予定を組む。（発表言語は、日本語でも英語でもよい。）プレゼンテーションは、クラス・メイトとのユニークな交流活動を含めた形で実施される。その方法とは、発表者が、発表の前に、教師の用意した60色の折り紙の中から好きな5色を選び、その5色のカードを小さくカットし、受講生が一人一人1枚の小さな色紙に、発表者へのお礼や励まし、発表で印象に残った点、感動した点などについて、「一言メッセージ」を書いてプレゼントするという方法である。全員の「一言メッセージ」をまとめて、発表者にプレゼントするデザインについては、初回に、皆で話し合っ決めて決める。この「一言メッセージ」の活動目的は、発表を単に情報交換にするだけでなく、多文化共存の時代に、言語、非言語、論理、感性の双方の視点から、人間理解を深め、友好的、創造的な発想で、コミュニケーションができる人材を育成することにある。方法そのものは、これまでの留学生と日本人学生との交流活動の中で発想を得たものである。なお、希望者は、別の日に実施される小学校訪問に参加することができる。【評価方法】①出席カード、②プレゼンテーションの実施 ③授業の諸活動を通じて得られた新知見の報告</p>
<p>日本研究 D (芸術)</p>	<p>石井 健 (いしい けん)</p>	<p>金・4 ***書道 演習室</p>	<p>この授業科目では、日本の文字文化を中心に考察していきます。本年度は、毛筆の実技を中心にしながら、書道や文字に関わる文化について幅広く学んでいきます。</p>	<p>【内容】日本の文字文化の基礎となる中国の書道の歴史を学んだのち、「ひらがな」や「カタカナ」も含め、日本の書道の歴史や文字文化について、筆や墨を使って文字を書く書道実技を中心にしながら勉強していきます。テキスト、鉛筆などの筆記用具、毛筆の道具等は各自で購入してもらいます。 【テキスト】授業中に指示します。必要に応じ、資料を配布します。 【評価方法】平常点 50% 提出物 30% レポート 20%</p>

** 「日本研究 A・C」 「日本研究演習 B・D」 は、春学期に開講します。

***書道演習室は 芸術・スポーツ科学系研究棟 4号館 2階 にあります。